５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.539-540
知足の森では、活動前に森の神様に挨拶しています

【定例活動報告】
草莽荘（そうもうそう）の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

本日の活動は午前中草莽荘にて間伐技術について勉強を行い、午後から小原萩山にて草刈りをした。

以前から気になっていた間伐対象木を倒木方向に補助するロープ掛けと滑車とその適切な角度等について、鋭角がなぜ悪いのか、広角がなぜ良いのかについて森林整備班で検討会を行った。参考に森林インストラクターで使用したテキストを使って行った。

樹木と地盤の角度は広角の方が効果がより高いことは誰しも理解できるところだがロープ滑車での折り返しの角度を120度１/3に設定することの意味

が立木へのテンションの掛かり方が低くなること以外に何の意味を持つのかを論じた。今後専門書等で研究を重ね論理を固めたいと思った。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】
知足の森

今日の午前は草刈りと鹿のカメラの電池交換、午後は間伐・枝打ちなどをしました。草刈りでは道を通る際に邪魔になる木の枝を切ったり、先生の飛ばすドローンの通り道などを刈る作業をしました。通った時に一面に生えてた草や枝が友達や自身の手で通りやすくきれいになり、達成感を感じました。間伐では2本の木を切り、そのうち1本は初めて自身で切りました。おい口や受け口を切り倒すのは私1人ではとても大変で時間がかなりかかってしまいました。自分の中では切れていると思っていた所が全然切れてなくて受け口が全く繋がらなかったり、刃の向きのせいで変なところを切ってしまったりなど反省点は沢山ありますが、それ以上に学んだことが増えました。最も大変だったのは枝打ちでした。1年生の時は根元から切るということを考えずに勢いだけで切っていましたが、それではまっすぐきれいに切ることが出来ないことを学び、根元から刃の向きを平行に動かすということを意識して切ることが出来ました。今回のラボを通して、木を切るということについての技術や考えが少し変わった気がします。この大切な経験をこれからの活動にも上手く活かして行きたいと思います。

前川　のい（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

今日はシカのカメラの電池替え・草刈りや、測量、間伐をしました。まず、電池替え・草刈りでは普段歩かないような急斜面を下ったり、草を刈ってドローンを飛ばしました。太いツルや、固い木もありましたが自分やみんなが通りやすくするために、頑張って切る事が出来ました。午後の間伐で私は2本の木を切りました。1年生の時よりも切るスピードが早くなったり早く切れるコツを掴めました。ななめに切らないように気をつけながら受け口を作りました。追い口を切っている時は少し大変でしたが、諦めずに最後まで切る事ができ、貴重な経験となりました。切った後の玉切りは正直、大変というイメージが強く、あまりやる気がありませんでしたが丁寧に片付ける事で足場もでき何よりも見た目が良くなることが分かりました。なのでどんなに大変な作業でも自ら進むことが自分の成長にも繋がり、仲間の成長にも繋がると改めて感じました。今回の活動を通して1年生の時よりも成長できたと思います。これからもラボの活動を通してたくさんのことを学んでいきたいです。

村上　和夏（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

桜井尚武の森のコラム

「屋敷林のケヤキ (*Zelkova serrata*)」

図1　屋敷林

2000年頃のつくば市郊外

半世紀以前の、農村が主だった関東平野一帯には周囲を高木で囲まれた広大な農家がありました（図1）。広い農家は徐々に分割されて近代的なこじんまりとした住宅に変わりましたが、その片鱗は今でもそこかしこに見られます。農家の主な活動のコメ・ムギ生産では、収穫物を精製するのに広い仕事場が必要で、必然的に広大な屋敷が出来ました。冬の季節風が強い地域ですから強風から居住空間や仕事場である庭を保護するための風除けとして周囲に樹木を植えたのが屋敷林です。屋敷林は煮炊きする薪炭の生産、農具や工具・日用品用材、また屋敷の修理・改築の資材生産でも重要でしたし果樹生産の場でもありました。ケヤキは単木状に育てると大変成長が早く大きくなります。箒状に枝を張らすケヤキの枝を刈り込んで好みの直材をとれるように仕立てるのが屋敷内の事ですから容易です。ケヤキの枝は切跡が腐朽しにくいのも具合がいい（図2）。屋敷林にはケヤキの有るのが普通というほど武蔵野の景色になじみました。

図2　ケヤキ巻込

2007小根山で採取。左は枝打ち後の枝、右は自然落枝後の枝

図3　大手門の柱

20190328皇居東御苑

ケヤキ材は重厚で強度が高いため大きな建物の柱や壁などに広く使われています。皇居東御苑の大手門の柱の例を図3に示しましたが、材表面の年輪が作る模様が見事で特長でもあります。材木として優れているだけでなく、時には材面に様々な杢（もく）と呼ばれる模様を顕わし大変高価で取引されました。天然林には多くないケヤキも農村の屋敷林には沢山見られます。神社仏閣のケヤキばかりでなく一般の屋敷林のケヤキについてもその価値をよく知っている「欅師」と呼ばれる人がいたほどです。

昔の屋敷林が段々と小分けされて、迷惑そうに切り刻まれている姿をそこここに見ます（図4）。屋敷林が消え、残されたケヤキもそれに愛着を持った人がいなくなると、これも消えるのは時代の流れでしょう。私たちは今その最後の時代に居るのですね。

図4　切られたケヤキ

200210つくば

桜井　尚武（本会、会員）

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

学芸大Explayground推進機構の活動の一つであるGREEN TECH ENGINEER LABで本会の間伐材を利用した活動が進んでいます。右の写真は附属学校の卒業記念品として２０年近く前に寄贈され、その後朽ちて座れなくなったものの廃棄もできない状況でしたが、中学生がいったん分解し、１０本の座面を作り組み直しました。他にも小金井の中学生の活動発表会で事例発表したり、ドローンを使って樹影投影面積の精度向上を目指すプロジェクト、AdobeのSDGsクリエイティブ映像コンテストのためにメディアリテラシーを専門とする大学の先生からご指導いただいたり、これまでの間伐材の活用からは想像もできない新しい取り組みがどんどん進んでおります。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン